Y15b　保育園での天文アウトリーチ活動

○富田 晃彦、嶋田 由美（和歌山大学）

大阪市と大阪府藤井寺市の 2 つの保育園で、天文アウトリーチ活動を行っている。このポスターでは、保育園での継続的な観察から、天文アウトリーチ活動がもたらす教育的な効果について報告する。

保育園は、園児はもちろん、保育者、保護者にも継続的に働きかけることができる場である。保育園では、保育内容として「自然や社会の事象についての興味や関心」も重視している。それらに対し、飼育栽培、天気観察、土遊び、森林観察などのキャンプがよく取り入れられている。一方、絵本やテレビ、大人からの話で聞く科学の世界も子どもにとって「日常的な自然」である。天文分野はその代表例であるが、実践例蓄積はこれからの課題である。

N 保育園では、当初、天文に限らず科学的な活動に積極的ではなかった。しかし、園児向けの話に出かけた後、保育士の天文分野に対する興味が深まった。その 2 カ月後、園は地域の科学館に初めて足を運んだ。園児はさらに興味を増し、そのさらに 3 カ月後に行われた制作展で「プラネタリウム」を製作するに至った（星空投影の機器ではなく、ステンドグラス似の透過型切り絵）。H 保育園では表現あそびとも連携して天文アウトリーチ活動を進めている。園児の動きをビデオ撮影し、園児の態度を客観的に調べる方法を取り、保育士からの聞き取りも行っている。現在のところ実践場所は 2 つの保育園に絞っている。これは継続的な活動と観察のためである。